

平成 28 年度 第 2 回長野市文化芸術振興審議会 会議録（概要）

日 時 平成 28 年 8 月 25 日（木） 午後 2 時 00 分から午後 4 時 00 分まで

場 所 長野市役所第一庁舎 7 階 第 2 委員会室

出席者 委 員：齊藤委員、玉城委員、中村（礼）委員、松原委員、片桐委員、鶴田委員、
中村（柏）委員

長野市：事務局（文化スポーツ振興部文化芸術課）倉石部長、浅川課長、
鈴木補佐、久保係長、竹内主事

《資料》

資料 1 新 長野市文化芸術振興計画 政策体系（案）

資料 2 長野市文化振興計画（たたき台）

- 1 開会
- 2 部長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 議事

（1）長野市文化芸術振興計画の改定について

（事務局）

〈資料 1 及び 2 について説明〉

（委員）

市民参加型のものが出来ないか。例えば地域を越えてみんなが集まって「信濃の国」を歌うようなイベントを企画できないか。そこに伝統芸能の発表があってもよいと思う。

（委員）

参加する、観る、創り出す、3つのカテゴリーがあると思う。鑑賞も参加になることもある。長野にある音楽資源をこれまでは積極的に使ってこなかった。財団としても、来年からは積極的に取り込んでいきたいと考えており、これが参加型につながると思う。

（委員）

ホールに行かれない人が大勢いる。こういった人をいかに取り込んでいくか。街の中に音楽を流すだけでもよいと思う。また、理念に伝統文化といったキーワードは入れて欲しい。

（委員）

音楽キャラバンを行っているが、最近はアウトリートという。芸術館で行ったものを来れなかった人に届けるのがアウトリーチになる。芸術館の事業とアウトリーチは一体のものだと考えている。学校、養護学級、老人ホーム、社会的弱者にはやらなくてはな

らない事業である。

(委員)

興味のある人はどこにでも行く。広めるためには興味のある人以外をいかに巻き込むか。ジャンルを広げたほうがよいのではないか。文化芸術活動というと敷居が高く、関係ないと思う人も多い。エンターテインメントの部分を出してはどうか。単純に面白い、楽しいというのも大切だと思う。

(委員)

日常生活の中で、生きがいとして、気軽に身につけ、親しむことが根幹だと思う。やる側の人間として自分たちが満足するだけでなく、聴いてもらいたい、観てもらいたいと思っている。それによって参加してもらえれば有り難い。

(委員)

メディアを使って、もっと発信する力をつけた方がよい。視点の部分の並びが整理されていない気がする。計画の中で「誰が」が抜けている。実際の活動実態を把握し、事業を展開したほうがよい。

(委員)

何を核にするのか。核になるものが必要だと思う。それを提案するのも我々の仕事だと思う。

(委員)

獅子舞フェスティバルは、是非、大人部門、キッズ部門をつくってほしい。子どもが参加することで、他の地域でもやってみようと思う。またコンテスト方式にしてかわいい賞をあげてほしい。

(委員)

大室古墳群の道路が完成し、いよいよ公開となるが、商業につなげてほしい。是非、お土産を売ってほしい。静なるものと俗っぽいもの、観光で来た人は、商売があると来た気になる。すばらしい芸術だけでなく、俗っぽいものも必要。

(委員)

幼少期からの伝統芸能、是非、小学校でできないか。また、観光都市として、善光寺や中央通りの商店を巻き込む働きかけをしてほしい。

(委員)

すばらしい計画だと思うが、実際、どこまでできているかが重要。文章だけでなく実践できるよう取り組んでほしい。

(委員)

街角アート&ミュージックも各団体に責任を持たせ、役割を持たせるのも必要ではないか。

(会長)

文化フェスティバルのベースになるものはある。5月の連休には表参道芸術音楽祭が

あり、長野市文化芸術祭もある。5月には多くのイベントが集中しており、5月を文化フェスティバルとして位置づけ、無料イベントもよいし、共通チケットなどの仕組みを作っても面白い。

(委員)

日常生活の中で文化芸術に親しみ、参加する。自ら参加することで創造をしていく。芸術館の中だけでは限られており、マーケットとして限界がある。視野を広げ、外に向けていくことが大切。松代の文化施設でもコンサートを行ったが、それこそが非日常であった。

(事務局)

本日いただいた意見を計画に反映させ、次回、素案としてお示ししたい。

(2) その他

(事務局)

今後の日程について説明。

5 閉会